

昨年、ブータン国王夫妻が来日されました。

ブータンは人口七十万人のヒマラヤの小さな仏教国です。国の豊かさを「経済（GDP）」ではなく「幸福（GNH）」で測ろうというユニークな考え方を示し、国民の幸福度をいかにあげるかを国の政策目標の柱に据え、国民の幸せを保証する責任をはっきり憲法でも明記している稀有な国です。

だれもが幸せになりたいと思っています。しかし、人それぞれ幸せの価値基準は違います。結局、幸せなことを幸せだと感じる心が育っているかいないかによって、どんなに恵まれた環境にいたとしても本当の幸せはつかめません。

幸せには、自分の欲求を満たすことの幸せと自分以外の幸せがあります。自我欲求は満たされた時点で燃え尽きてしまいます。それに対して、自分以外の幸せならば他者と共有できるので無限大の幸せを感じることができます。つまり、仏教では利他行こそが幸福への道だと教えてくださっているのです。

欲というものは、人間生きている限りついてまわるもので、いかに修行を積んだとしても欲望をゼロにすることはできません。欲が少なれば少ないだけ、苦悩も少なく、心安らかでいられるということです。お金を持っていると幸せのように思えますが、実は「幸せ」そのものをお金で買うことはだれにもできません。ですからお金を持つことは幸せになる為の絶対条件ではないのです。

日本も仏教国です。かつての日本人は人を敬い、何事にも感謝できる心を持っていたような気がします。私たち大人はそんな価値観を次の世代に引き継ぐ責任があると思います。お互いがお互いの幸せを願う社会が実現することを願うものです。